

## 日本環境共生学会第 26 回（2023 年度）日本環境共生学会学術大会案内（2023/4/7）

日本環境共生学会第 26 回（2023 年度）日本環境共生学会学術大会の開催概要をお知らせします。  
（修正・変更は、随時アップ致します）

1. 主催/Organized by： 日本環境共生学会  
Japan Association for Human and Environmental Symbiosis
2. 期間/duration： 2023 年 9 月 16 日（土）、17 日（日）/September 16-17,2023
3. 開催場所/venue： 愛知学院大学・日進キャンパス（会場とオンライン併用を予定）  
Aichi Gakuin University Nisshin Campus
4. 大会テーマ：『食と環境』
5. 日程：9 月 16 日（土）、17 日（日）  
9 月 16 日（土）12 号館 G105 教室  
13 時 00 分： 開会式、表彰式  
13 時 45 分： 公開シンポジウム  
～15 時 30 分  
9 月 17 日（日）午前・午後（12 号館 1 階の教室）  
口頭発表、ポスター発表  
（プログラムは発表申込締切後にお知らせします）
6. 公開シンポジウム概要  
テーマ『地域の食文化の持続を目指して』（仮）  
会場+オンライン（登壇者は会場参加予定）  
参加費無料

### 趣旨

食料自給率の向上や 6 次産業化につながる地産地消、質と量を確保するための食料安全保障などこれまで議論されている。2022 年 2 月のロシアのウクライナへの侵攻に伴う世界的な食糧不足は特に開発途上国の貧困層への影響が深刻であるとみられている。日本では 40%弱（カロリーベース、令和 3 年度、農水省）の食料自給であり、食品等の輸入重量は 31,627,360 トン（令和 3 年度、厚労省）とされている。

低炭素社会や地域循環共生圏の加速的な推進も課題であり、環境共生と食について多面的に考え応用することが期待される。

そこで、地域の食文化に注目し、政策面と実践面での現状を多面的に知り、将来へ繋げる方策の検討を、本シンポジウムの目的として実施する。

登壇の講師の方々には、①農政の立場からの取り組みについて、②現場での課題と対策、③国際協力を通じての実践、④6 次産業・地産地消などの実践者の取り組み、の立場から、それぞれ話題を提供して頂き、意見交換を行う。

7. 参加費（公開シンポジウムのみの場合は無料）

一般会員                               ：事前振込 3,000 円（当日 4,000 円）

一般会員（大学院生）               ：事前振込 1,000 円（当日 2,000 円）

学生会員                               ：事前振込 1,000 円（当日 2,000 円）

非会員                                   ：事前振込 5,000 円（当日 6,000 円）

非会員（学生）                       ：事前振込 3,000 円（当日 4,000 円）

（※事前振込は、9 月 15 日振込分までです）

8. 組織委員会（2023 年 4 月現在）

名誉大会会長   林 良嗣   中部大学

大会会長       森下英治   愛知学院大学

実行委員会

委員長         石橋健一   愛知学院大学

副委員長       林希一郎   名古屋大学

実行委員       長島 匠    名古屋大学

                  村田尚生   愛知学院大学

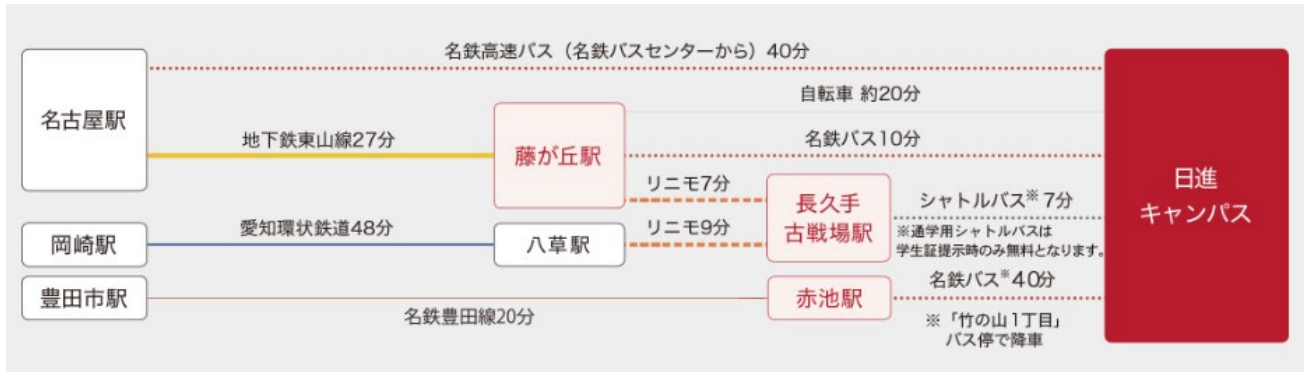
                  城月雅大   名古屋外国語大学

                  高野雅夫   名古屋大学

9. 会場アクセス・会場レイアウト

愛知学院大学日進キャンパス (住所 〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池 12)

アクセス <https://www.agu.ac.jp/access/nissin/>



(1F)

12号館フロアマップ

